



『絶滅しかかったクマの昔と今』 ～関係機関が本気で取り組むクマの保護管理～



澤田 誠吾氏

島根県農林水産部 森林整備課 鳥獣対策室 企画員

地理と歴史からみた人と動物の関わり 中国地方をモデルとして ～中国山地の哺乳類の今と昔を考える～

『西中国地方にはカモシカもリスもないのか！』

田中 浩氏 山口県立山口博物館 学芸員



2019年9月1日（日）13:00～15:00
山口大学 大学会館 大ホール

動物が好きな人なら、子供のころに「日本の動物図鑑」を開いてみたことがきっとあることでしょう。そこにはよく知っている動物の写真と、その動物についての解説が載っていたはずですが、例えばかわいらしいニホンリス。本州、四国、九州に分布、なんて書いてあります。こう見ると国内では当たり前のように生息している動物のように思えますね。

でも、ちょっと待ってください！ ここ、山口県も含めて中国地方西部には、リスはいないんです！ つまり、中国地方の人にとっては、リスは「山にすんでいる動物」ではないのです。同じようにニホンカモシカもいません。一方で、絶滅の危機にあったけれど、現在では何とか持ち直しているツキノワグマのような動物もいます。この違いは何なのでしょう？

ある種の動物が「いない」、ということは「もともと生息していない」場合と、「その地域では絶滅してしまった」場合があります。そして動物の生息には、その地の環境要因とそこに住むヒトから受ける影響とが複雑に絡み合っています。つまり、動物の分布を知ることは、その地の環境やヒトの生活を知ることにつながるのです。同時に、生息数の変遷もまた、ヒトとのかかわりを抜きに語ることはできません。しかも、この人とかかわりはこの数十年とかそういう短い時間のこともあれば、ほとんど歴史と言ってもいいくらいのスパンでの話になることもあります。

今回、市民公開講座では、「西中国山地」をキーワードに、そこに生息する哺乳類の過去から現在に至る変遷と、その特徴、さらには人とかかわりについて、動物たちを見つめてきた方々にお話しいただきます。中国地方は本州の中では一番面積も小さく、人口も少ない地方ですが、動物相はなかなかユニークで、またそのバックグラウンドも興味深いものがあります。これをきっかけに、皆さんのお住まいの地域の動物や、その背景に目を向けてみてはいかがでしょうか。

参加無料

申し込み不要



日本野生動物医学学会
JAPANESE SOCIETY OF
ZOO AND WILDLIFE MEDICINE



会場アクセス



大会ホームページ

お問い合わせ

大会事務局 TEL 083-933-5882
vet-anat@yamaguchi-u.ac.jp

大学会館への案内図
山口大学吉田キャンパス
〒753-8511 山口市吉田1677-1



ご来学の注意

- 自動車の駐車スペースには限りがあります。予めご了承ください。
- 公共交通機関でのアクセスは、以下のサイトをご参照ください
<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/13/616.html>
※バスをご利用の場合は、JR新山口駅→山口大学前バス停間は平日のみの運行となりますので、防長交通・防長観光バス時刻表路線図 (<https://www.bochobus.co.jp/>) をご覧ください。
- 敷地内は全面禁煙です。